



やなせ

所沢市立柳瀬中学校 校長 猪口 茂

学校教育目標

3つのKを達成しよう

- 活躍しよう
- 基礎・基本をしっかり身に付けよう
- 健康な心と体を育てよう

みんなが暮らしやすい社会にするために

令和7年度が始まり約1ヵ月が過ぎました。新たに各委員会の委員長も任命されました。精一杯取り組みますという委員長さん達の挨拶を聞きながら、新しい年度にける皆の気持ちが伝わってきました。

先日、AETの先生から学校にいるのがつらいと相談を受けました。事情を聞くと、昨年度末に行った「3年生を送る会」の劇を見て、そう感じるようになったということでした。

その劇というのは、3年生の日常生活に脚色を加えて描いた劇です。劇中の修学旅行のシーンに、3年生が鹿をいじめる人に遭遇し、鹿をいじめた人は別の人達に懲らしめられるという場面がありました。鹿をいじめた人の胸には、「外国人」というプラカードが下げられていました。意図してそうしたプラカードをつけた訳ではなく、ネットで見つけた動画をそのまま劇に取り入れてしまったそうです。

一方、AETの先生はその場面を見て思い悩んでいました。私はAETの先生から話を聞いて、初めて逆の立場だったらということに思い至りました。逆の立場というのは、もし海外に行った時、同じような劇が行われていて、そのプラカードに「日本人」と書かれていたらどう思うかということです。更に、周りの人が皆でゲラゲラ笑いながらそれを見ていたら…。私は、きっとそこに自分の居場所はないと感じるでしょう。

日本でも、ヘイトスピーチが起きているというニュースを耳にします。何故そんなことをするのだろうと思ひながら、一方で自分の学校に悲しい思いをしている人がいることに気づけず、しかも、みんなと一緒に笑っている。本当に鈍かったと思いました。そして、そんな思いをさせ続けていたことに対して、申し訳なく思いました。

日本で過ごしていれば、日本人が多くて他の国出身の人は少ないことがほとんどです。そんな状況で起きた今回の出来事は、言葉を換えると「多数派の人達が少数派の人を傷つけているのに、傷つけていることにすら気づけなかった」ということです。

中学生時代に、私にも似たような経験がありました。私は都内にある私立の中学校に通っていました。その中学校に通う生徒の多くは東京都内に住んでいました。私は、所沢に住んでいましたので、「田舎者」と馬鹿にされることがありました。中学校に入学したばかりの頃、特にそれを感じました。

小学校は所沢の学校でしたから、そんなことを言われた経験は一度もありません。それだけに、最初どう反応すればいいのか戸惑いました。都内に住む多数派の人にとっては、少しからかっただけかもしれません。

しかし、埼玉に住む少数派の私は、そのことを笑ってやり過ごすことができませんでした。都内に住んでいればそんなに偉いのかと腹も立ちました。また、「田舎者」という言葉に反発してケンカもしました。幸い2年、3年と進級するにつれ、部活やクラスに仲間も増え、そんな思いをすることはなくなりました。

自分では変えられないことだからかわれた時、どう対応すればよかったのか。AETの先生から話を聞いて、中学1年生の頃に感じた悔しい思いがよみがえってきました。

国籍、体形、障害のあるなし、LGBT、趣味、職業、勉強ができるかできないか、お金の有るなし…

こう考えていくと、多数派、少数派の生じるものは身の周りにいくらでもあります。多数派であれば少数派の人をいじったり、からかったりしてもいいのでしょうか。そして、少数派の人はそれを我慢するべきなのでしょうか。そんなことは、決してないはずです。

嫌な思いをした時、声を上げることが大切です。しかし、本人には声を上げづらい場面もありそうです。そんな時、周囲の人の存在が大きな意味をもちます。そのことに気づいた人から、「それって、おかしくない」という声が自然に挙がる。柳瀬中学校をそんな学校にしていきたいと思います。（5月1日全校朝会の話より）